

中途採用における面接時の質問例と解説

(参考：中途採用・転職の面接でよく聞かれる 100 の質問 | バイトルマガジン BOMS)

自己紹介について

「自己紹介をお願いします」

ほぼすべての企業で、面接の最初に聞かれることが多いです。自分の経歴や、そこからなぜこの企業を志望したのか（自分の思い）について、わかりやすく簡潔に表現できるかが見られます。

「これまでの職務経験・経歴をお聞かせください」

応募書類の「職歴要約」の内容を口頭で話すイメージでいられるとよいと思います。どのような職務をどのくらいの期間経験してきたか、が説明できるとよかったです。むしろ、応募書類に書いた要約と内容がだいぶ異なってしまうと、一貫性がなくなり採用担当者に疑問を抱かせることもあつたりします。

「前職（現在の職業）ではどのような実績をあげられていますか？」

もし業務の目標などがありそれを達成した場合には、その内容（どのような目標をどの程度達成したか）が話せるとよいです。また、数値で表せるもの（〇ヶ月で〇件、〇時間で〇個、など）だとわかり易かつたりします。

「これまでの人生で、何かに向かって努力した経験を聞かせてください」

どのようなことをどのくらい頑張れるのか、が見られます。なぜ、その努力を行ったのかについても触れられると、より「その人らしさ」が見えて面接官に印象づけることができます。

「(上の質問の回答を受けて)そこから学んだものは何でしょうか？」

頑張った経験をどのようにその後活かしているのか（自己成長できるか）を聞く質問です。

「これまでの人生において、もっとも大きな挫折の経験を教えてください」

上記と逆に、どのようなことが苦手なのか（だったのか）、を聞く質問です。この質問により、自分の課題を認識しているかが見られたりします。また、ただ挫折・失敗しただけでなく、やはりそれをどのように克服したか、あるいはその経験がどのように今に活かしているのか（成長に繋がっているか）まで話せると印象が良くなります。

「これまでの業務のなかでもっとも力を入れてきたことは何ですか？」

「得意なこと」「やりたいこと」を知るための質問です。具体的な場面が浮かぶようなエピソードと併せて話すことができると、より「その人らしさ」が見えて面接官に印象づけることができます。

「あなたは職場でどのような人だと言われますか？」

自分の主観だけでなく、周りからはどのように見られているのか（客観）がわかっているかを聞く質問です。またこの質問によって、職場での周りの人との関係性（どの程度コミュニケーションが取れているか）が見られたりもします。

「学生時代はどのようなことに打ち込まれていましたか？」

「これまでの業務のなかでもっとも力を入れてきたことは何ですか？」と同じ意図です。中途入社の場合は、あまり聞かれることはないように思います。

「休日はどのように過ごしていますか？趣味はありますか？」

この質問で、仕事オンリーになってしまう人かどうか、が見られたりします。趣味や好きなことを話してもらうことで、その方の人間性や人としての魅力が伝わることも多かったです。

転職・退職理由について

「転職を決めた一番の理由は何ですか？」

なぜ今の仕事・職場ではないのか、を聞く質問です。ネガティブな内容、それを素直に話すことで正直さ・率直さが伝わることもあります。ただの愚痴・不満で終わらないように、「なので今後はこういうことを目指したい」という前向きな気持ちに伝わるように表現することが大事です。

「前（今）の会社の入社を決めた理由は何ですか？」

仕事を選ぶときにどのようなことを大事にしてきたのか、を聞く質問です。もし今回応募する会社にも通じるものがあれば、それを併せて伝えられるとアピールになります。

「退職してから期間がありますが、この間は何をされていたのでしょうか？」

「仕事をする」ということに対してどのように考えているのか、が見られる質問です。嘘をつく必要はありませんが、その期間にやっていたこと、あるいは考えていたことで今回の応募につながるものがあれば、そこを話すことができるとよいと思います。在職しながらの転職活動になる場合、もしこの質問があるとしたら「経歴の途中で一定の離職期間がありますが・・・」という形で聞かれると思います。

「転職回数が多いようですが、何か理由があるのでしょうか？」

同じことを繰り返しているのかどうか、を見られる質問だったりします。不満や不安など、何かあった場合でもある程度は耐えられるのかどうか、仕事や環境を変えるときに自分のやりたいことや自分に合う環境を理解して次に進んでいるのかなど、経験を次に活かすことができているか、が見られます。やむを得ない事情がある場合にはそれを正直に伝えるのもひとつですが、やはり、ただの愚痴・不満にならないように、冷静にその事情について考え、判断できているかが見られたりもします。

「今の会社に入ってまだ日が浅いようですが、なぜ転職を考えられたのでしょうか？」

質問の意図としては、上記の「不満や不安など、何かあった場合でもある程度は耐えられるのかどうか」と同じです。こちらもやはり、やむを得ない事情がある場合にはそれを正直に伝えるのもひとつですが、冷静にその事情について考え、判断できているかが見られたりもします。

「今回の転職で叶えたいことは、どのようなことですか？」

今後のキャリアプランや将来の夢があるかどうか、そして、それに今回応募する職種・仕事がどのようにつながるのか、を見たい質問です。給与や待遇であれば、その理由が説明できるとよいですし、自分のスキルや経験なのであれば、それがこの先のキャリアにどうつながっていくイメージなのかについて話せると、冷静に自分の人生を考えている方という印象になります。

「前回の転職理由をお聞かせください。」

「転職を決めた一番の理由は何ですか？」の質問に近く、1つ前の転職では、なぜその仕事・職場ではなかったのか、を聞く質問です。こちらも、ネガティブな内容、それを素直に話すことで正直さ・率直さが伝わることもありますが、ただの愚痴・不満で終わらないように、最後をポジティブな表現で終わらせられるとよかったです。

「社内での異動などは考えなかったのでしょうか？」

転職は自分の環境を変えるという選択肢だったりしますが、自社内で環境を変える選択肢はなかったのかなど、視野広く考えることができているかを見られる質問です。

「現在の仕事や会社に対する不満について教えてください。」

「これまでの人生において、もっとも大きな挫折の経験を教えてください」と似ていて、何を大事にしているのか、どのようなことが苦手なのか、現在の仕事や会社の場面でのエピソードを聞く質問です。この質問により、自分の課題を認識しているかが見られたりします。これも、ただ一方的に不満や愚痴を話すのではなく、そのような状況になる理由や背景が職場側にもあることへの理解を示し、それをどのように改善・克服しようとしたか、その経験がどのように今回の転職につながっているのかまで話せると印象が良くなります。

「不満を解消するために具体的な行動は起こされましたか？」

上記の「現在の仕事や会社に対する不満」がただの不満や愚痴の話で終わった場合に、追加で聞かれる可能性がある質問です。そのため、不満を聞かれたときに具体的な行動まで話せていればこの質問は聞かれないとは思いますが、答えを用意しておくという点では、解消するための行動だけ切り出してまとめておくのもよいと思います。

志望動機について

「当社を志望した理由は何ですか？」

志望動機に関する質問は、「その業種・職種・企業への」思いがどのくらいあるのか、また、現在の仕事・環境との違いや、自分のキャリアプランとそのため選択肢を冷静に考えることができているか、を見ることが多いです。あまり応募先企業を無理に持ち上げすぎると逆に白々しい印象になってしまうことがありますので、「自分はどうしたいのか、そのためにその企業はどのような位置づけになるのか」「企業のどこが魅力だと感じたのか、それはなぜなのか（＝自分の思い）」という形で表現できるとよいと思います。

「当社のことはどこで知りましたか？」

この質問により、どのように転職活動を進めているのかを把握します。知った場所だけでなく、そこからなぜ応募にまで至ったのかの経緯を話せると、具体的なエピソードとして伝わりやすくなります。

「転職先に求める一番の条件は何ですか？」

仕事や環境に対して何を大事に考えているか、価値観を問う質問です。どのような条件なのかだけでなく、その理由まで説明できるとよいと思います（○○です、なぜなら・・・）。

「同業はほかにもありますが、なぜうちを志望するのでしょうか？」

これも仕事や環境に対する価値観を把握する質問で、かつ、応募先企業のことをしっかり理解しているか（どこでもよいという考えで受けていないか）を見る質問でもあります。

「この職種を希望する理由を教えてください。」

「この業界を希望する理由を教えてください。」

「入社後、どのような業務に取り組みたいですか？」

自分のキャリアの中で、応募する仕事をどのように位置づけているのかを確認する質問です。「やりたい」という Will だけでなく、「実際にどのようなことができるか（どのように活躍・貢献できそうか）」という Can の部分も説明できると、応募する業種・職種のことをしっかり理解しているか（想像だけで考えていないか）が伝わり、また実際にその

仕事をしていくイメージをお互いにすり合わせることができます。

「現在の勤務先と、当社の違いは何でしょうか？」

「同業はほかにもありますが・・・」の質問とほぼ同じですが、この質問ではさらに、応募先企業だけでなく、現在の企業（業種・職種・仕事）についてもどの程度理解しているのか、実際に比較検討を行ったうえでの転職なのかどうか、が見られます。そのため、違いについて話すだけでなく、そこからなぜ今回の応募先企業を志望したのか、その理由につながるように説明できるとよかったです。

「応募する会社はどのような基準で選んでいますか？」

これも、やみくもに（どこでもよいという考えで）転職活動をしていないかどうかが見られる質問です。実際にどのような基準で応募先の絞り込みを行い、自分が求める条件との比較検討をしているかどうかが見られます。

「なぜ未経験の職種にチャレンジしようと思ったのでしょうか？」

転職・退職理由の質問の答えと同じになるかと思えます。「チャレンジ」という点については、この先何を頑張っていきたいのか、それが自分（のキャリア）にとってどのような意味があるのかが説明できるとよさそうです。

スキル・能力について

この質問によって「何ができるのか」「何が得意なのか」「何に興味を持って取り組んできたのか」や、「実際に採用となった後に少しでもマッチしそうな仕事は何か」「どのような環境ならうまくやっていけそうか」を検討したりもします。これまで経験したことがないことや、まだ学んでいないことについても、どのようなスキル・能力が必要だと思うのかを聞くことで、応募先の業種・職種をどの程度理解できているのかも見られたりします。

「当社で活かせるスキルにはどのようなものがありますか？」

業種・職種を変えることになる場合は、これまで何もしてこなかったわけではなく、キャリアチェンジをしても引き続き活かせるスキル・能力（ポータブルスキル）があるはずなので、そこをアピールできるとよいと思います。また、仕事ではまだ使っていないけれども、個人的に学んできたこともアピールできるとよいと思います。

「この業界（志望先の会社の業界）ではどのようなスキルが重要だとお考えですか？」

「弊社では〇〇のような能力が必要になりますが、いかがでしょうか？」

上述のとおり、応募先の業種・職種をどの程度理解できているのかが見られる質問です。また、この質問に対しても、必要なスキルだと考えて自分で学んできたことについて話せるとよいと思います。

「マネジメントの経験はありますか？」

「業務やプロジェクトのリーダー経験はありますか？」

作業計画や進捗管理（コトのマネジメント）、あるいは人の配置や育成（ヒトのマネジメント）などは、どの業種・職種・企業でも必要となるポータブルスキルです。また、この経験があることで、仕事をどの程度任されていたか（≒責任ある立場として）も見られたりします。経験がない、あるいはあまり自信がない場合については、無理にひねり出さずに正直に答えて大丈夫です。

なお、経験はあるけれど自分としてはあまりマネジメントの立場を希望していない場合は、その理由（ただ希望しないというだけでなく、なぜ希望しないのかという客観的・合理的な理由）も伝えておけるとよいと思います。あるいはマネジメント経験はない・少ないけれど将来的にはめざしたい場合にも、そのことを希望する理由（これもただやりたいというだけでなく、なぜその立場になりたいのかという思い）とともに伝えられるとよかったです。

「今までどのような商品を扱ってきましたか？」

「これまでの業務における実績などお聞かせください。」

これは一見、応募先の業種・職種と直接関係ないように思えますが、この質問によって、どのようなスタンスで仕事に取り組んできたのか、自分の会社の商品やサービスに対して思いを持って関わることができるのかを見られたりします。実績については、どのような仕事が得意なのか、強みを把握することにもつながります。

「仕事上での成功談を教えてください。」

「仕事上での失敗談を教えてください。」

これまでの仕事において印象に残っている出来事を、相手の方も頭に浮かべてイメージしやすいよう、具体的なエピソードや場面を交えて話せるとよいです。また、なぜそれが自分にとって成功なのか（失敗なのか）が説明できると、さらに「自分らしさ」が伝わって面接官に印象づけることができます。

なお、成功談が自慢話になっていないか、失敗談がただの後悔になっていないかが見られたりもしますので、感情的になりすぎずに謙虚さをもって、冷静かつ客観的にエピソードを説明できるとよいと思います。

「語学力についてお聞かせください。」

海外とのやり取りが発生する業種・職種で聞かれることのある質問です。これも、マネジメントやリーダーの経験と同じく無理にひねり出す必要はなく正直に答えて大丈夫ですし、もし将来的にはめざしたい気持ちがあれば、その理由（ただやりたいというだけでなく、なぜやってみたいのかという思い）とともに伝えられるとよかったです。

自己PRについて

「自己PRをお願いします。」

自分のことをどの程度わかっているのか、仕事にどのように取り組むことができるのか、また、仕事をする中で自己成長できるかどうかを見られる質問です。この質問によって「何が強みなのか」「どのようなタイプなのか」を把握し、「実際に採用となった後に少しでもマッチしそうな仕事は何か」「どのような環境ならうまくやっていけそうか」を検討したりもします。

「自分がこの先やっていきたいこと、チャレンジしたいこと」について、なぜそうなのかという理由とともに簡潔に話せるとよいと思います。

「あなたはどのような性格ですか？」

自分で感じている特徴や、周りの人からよく言われることなどを挙げられるとよいと思います。また、そのことがよくわかるようなエピソードとともに話せると、相手もイメージがしやすく印象に残ったりします。

「あなたは周囲の方からどのような人だと言われていますか？」

これは、上の質問で自分が感じている性格の話だけにとどまった場合に、追加で聞かれる可能性があります。あるいは、自分で感じていることよりも、周りの評価を重視する企業の場合は、この質問だけになる可能性もあります。

「長所と短所をそれぞれ教えてください。」

「あなたの短所を補うために取り組んでいることはありますか？」

謙虚になりすぎず、少し他者視点に立って、冷静かつ客観的に説明できるとよいです。長所が出てこない場合はネガティブな人だという印象になってしまいますし、短所が出てこない場合には自信過剰な人？と思われたりもします。どちらを話す場合にも、自分として気をつけていることを付け加えて話せると、冷静に自分をとらえているような印

象になります（長所と短所は裏返しにもなったりするので、そのことを理解して自分なりに工夫しているかが見られます）。

「あなたが働くうえで大切にしていることは何でしょうか？」

「あなたの仕事観を教えてください。」

「あなたはどのようなときに、仕事にやりがいを感じますか？」

仕事に対してどのように取り組むことができるのかを確認する質問です。この質問によって、応募先企業の風土や職場の雰囲気合うかどうかを確認していきます。「仕事観」は「働く理由（なぜ自分は働くのか）」を聞く質問です。仕事に対してどのような心持ちでいるのかについて、正直かつ率直に話せるとよいと思います。

「普段からスキルアップのために行っていることはありますか？」

「仕事を行う際に工夫している点がありますか？」

ただ言われたことをやるだけでなく、自分なりに自己成長できるかどうかを確認する質問です。

勤務条件について

働くうえで、環境的な側面はメンタルにも影響しやすかったりしますので、その点で企業側が求めるものや提供できる内容と本人の希望が合っているか、調整やすり合わせは可能であるかを確認し、お互いに気持ちよく働けそうかを見ていくための質問です。また、仕事は生活を支えるためのものでもあるため、給与や時間、場所などが問題ないかを確認します。自分の希望をその理由とともに率直に伝えながら、譲歩できるところはあるかを一緒に検討するスタンスで答えられるとよいと思います。なお、あまりにも自分の条件を曲げて譲歩してしまうと、実際に働き始めてから無理が生じることにつながったりもしますので、すり合わせだと考えて率直に答えたほうがよいと思います。

「給与の希望をお聞かせください。」

今の仕事での給与と、今後のキャリアや人生を考えて、どのくらいからスタートがよいか、最終的にはどのくらいを目指したいのかが説明できるとよいです。スタートは今の生活を維持するために最低限必要な額にしておくか、あるいは交渉という視点をもって少し高めに設定し、企業側の反応を見て少し譲歩する姿勢を見せていくような話の進め方をするのもひとつです。

「残業が月平均〇時間、1日あたり〇時間ほどの残業がありますが大丈夫ですか？」

「休日出勤の可能性もありますが、大丈夫ですか？」

勤務時間に関する質問です。自分の体調や特性を鑑みながら、どの程度なら無理なく働けるかを説明し、すり合わせができるとよいと思います。繁忙期があり、そのときだけ忙しい仕事の可能性もあるので、そのあたりについて逆質問してもよいと思います。また、もし聞けそうであれば、残業代の考え方や、長時間勤務になる場合に休憩はどのような形になるのか、また休日出勤については手当がどうなるのか、振替休日・代休の制度はあるのかなどを逆質問できると安心につながるかもしれません。

「いつ頃の入社をお考えですか？」

「もし一緒に働けることになれば、どのくらいで入社できますか？」

現職を円満に退社してトラブルなく入社してもらうための質問です。もしかしたら前任者からの引継ぎなどの都合で早めの入社を求められることもあったりしますが、どのように調整できるかを一緒に検討し、調整が難しい場合は正直に、入社可能な時期をその理由とともに説明できれば大丈夫です。

「転勤の可能性があります、いかがでしょうか？」

「馴染みのない土地のようですが大丈夫ですか？」

「車通勤は問題ないですか？」

勤務地に関する質問です。正社員の場合、全国転勤の可能性があるところも少なくありません。また、顧客企業やプロジェクトに合わせて勤務場所が変わったりする業種・職種もあります。これも、自分にとって無理がない働き方かどうかのような形なのかを説明しながらすり合わせができるとよいと思います。

転勤がある場合には、一人暮らしをするかどうかも含めて考える必要があります。プロジェクトなどで期間が決まっており短い場合には、ホテル暮らしやマンスリーマンションなどを使うこともあったりします。転居する場合も含め、その際の費用はどのようになるのかなども聞いておけるとよかったです。

逆に、実家や地元を離れることを望まない場合には、そのことを理由とともに伝える必要があります。やむを得ない事情がある場合は企業側が配慮してくれるかどうか、応募する側として見ていくことも必要です。

「最初に半年ほど現場での研修を受けてもらうことになりましたが、問題ありませんか？」

「いずれは別の職種で働いてもらうかもしれませんが、大丈夫ですか？」

正社員として長く働いてもらうために、企業側も育成制度を用意していたり、さまざまなキャリアパスを用意していたりします。もし変化することに不安がある場合には、そのことと理由を伝えつつ、どうしたらよいかを企業側とすり合わせていけるとよかったです。

目標・キャリアプランについて

目の前のことだけでなく、少し長い視野で自分のキャリアや人生を考えられているか、またそのために自己成長していくという視点があるかを見られます。また、それらに対して今回応募する仕事・職種をどのように位置づけようとしているかを確認する質問でもあります。

「将来の夢や目標はありますか？」

「当社に入社したあとのキャリアプランについてはどうお考えでしょうか？」

「3年後、どのようになりたいですか？」

「当社ではどのような業務を行いたいですか？」

「今後チャレンジしたいことはありますか？」

「現在のあなたの課題は何だと思えますか？」

「新たに身に付けたいスキルはありますか？」

「目標を達成するうえで一番大切なことは何でしょうか？」

「目標達成において、困難なことの乗り越え方を教えてください」

「自身が成長するうえで、目標にする人物や人物像はありますか？」

自社・提供サービスについて

「自分が大事にしていること」と「企業の理念や価値観」の共通点を探るための質問です。また、応募先の企業が表現・体現していることについて、どの程度興味を持っているのか、どの程度理解しているのかを確認するための質問でもあります。未経験の業種・職種であっても、自分で調べられることは調べているか、興味を持って取り組めるのかが見られます。ただ、無理に取り繕わずに、わからないことは正直にわからないと伝え、そのことについて自分

はどうしようと思っているか（調べる、入社してからキャッチアップする、など）が話せれば大丈夫です。

「当社の経営理念・クレドについてどう思いますか？」

「当社の〇〇（サービスや商品）は利用したことありますか？」

「当社の〇〇（サービスや商品）の改善点はどこにあると思いますか？」

「我々の業界は今後どうなっていくと思われませんか？」

「当社の強みはどこだと思いませんか？」

「当社の弱点はどこだと考えますか？」

「当社の魅力はどのような点にありますか？」

「当社に対してどのようなイメージをお持ちですか？」

「当社の事業領域をご存じですか？」

「当社のテレビCMを観てどう思いましたか？」

答えにくい質問について

面接で質問されるということは、決して意地悪で聞かれているのではなく、企業側が確認したいことがあるということです。その点を意識して、誠実に答えられれば大丈夫です。

「ほかの会社から内定を受けたとき、当社と他社のどちらのオファーを辞退しますか？」

「応募する会社はどのような基準で選んでいますか？」「同業はほかにもありますが、なぜうちを志望するのでしょうか？」と似たような意図の質問です。他社の方が魅力的な場合には、そう感じる理由とともに、そのことを率直に伝えても大丈夫です。変に取り繕うとそれが逆効果（無理をする人だと感じさせてしまう）につながったりもしますので、答え方には注意が必要です。

「最近で一番気になるニュースは何ですか？」

世の中の動向や社会情勢についてどの程度アンテナを張っているかが見られる質問です。無理に応募先の業種や企業に寄せなくても大丈夫ですが、なぜそれが気になっているのか、その理由を説明することで「その人らしさ」が伝わり、職場の雰囲気と合うかどうかを見てもらえます。

「あなたにとっての生きがいとは何でしょうか？」

「仕事観」にも近いですが、仕事だけでなく生き方全体として、どのような心持ちで人生を歩んでいるのかを確認するための質問です。率直に答えることで話が盛り上がる可能性もあり、それによって面接官に印象づけることもできたりします。

「ほかに何社ほど受けておられますか？」

「他社の選考状況はいかがでしょうか？」

実際に入社となる可能性や時期を確認するための質問です。他を受けているから不採用になるということはなく、むしろ、これを聞くことで入社して欲しい方にはより企業側が条件などの譲歩を示してくださることもありますので、正直に答えて大丈夫です。また、転職に対してどのような思いを持っているのか（なんとなくの転職活動になっていないか）を見られたりもしますので、応募先1社だけに絞っている場合はその理由を、複数受けている場合にはどのような業種・職種を受けているのかとその理由について説明できるとよいと思います（企業名までは言わなくても大丈夫）。

「今回の転職について、ご家族はどのようにお考えでしょうか？」

日々の生活で関わる家族との関係性を確認する質問です。実家住まいの場合には、生活面や収入面で何か配慮すべき点があるかどうか、あるいは働く目的（生活や収入に懸念は無いのになぜ？）を確認したりすることもあります。

「希望職種と異なる場合はどうしますか？」

企業側にも人員配置上の事情があったりしますので、もしそのようなことがあった場合にどの程度すり合わせができればそうかを確認する質問です。正社員の場合、応募・採用時点では部署や職種が示されていても、実際に雇用契約を結ぶ際は「その会社の中で必要とされる仕事全般」が業務内容として示されることも多かったです。もし、特定の仕事や職種だけに携わりたいという希望がある場合には、その理由や自分の思いとともに説明していけるとよいです。無理に、自分の希望をすべて抑える必要はありません。

「当社で働くには難しい面があるように思いますが、どうお考えですか？」

この質問をする際には、実際はどのような点が難しいと考えられるのかまで示されると思います。この質問例のように具体的な内容が示されない場合には、まずはどのような面で難しいと思われたのか確認してから、自分としてはどうしたいか、また、そのために会社側に配慮・検討してもらいたいこと等があればその内容を話せるとよいと思います。

逆質問

逆質問（面接の最後に聞かれる「何か聞いておきたいこと、確認しておきたいことはありますか？」といった質問）は、実際には面接の中で聞かれたことや答えたことについて、気になった点や補足しておきたいことがあれば、聞いてみる・伝えてみる感じがよいと思います。

あるいは、質問例にはないけれど、自分として今回の応募に際して気になっていること・伝えておきたいこと（例：仕事内容や環境、処遇などについて、自分の考えている内容で問題ないか、不安なことなど）があれば、事前に用意しておいてそれを聞いてみるとよさそうです。できれば、不安や懸念、自分がどうしても譲れないことがあっても前向きに考えてすり合わせていきたいことを示しながら、失礼のないように聞いていけるとよいです。

「御社で仕事をするうえでもっとも重要なスキルは何ですか？」

「入社までに勉強しておくべきこと、身に付けておくべきスキルはありますか？」

「御社の強みは〇〇だという印象を持っていますが、自社の強みはどこにあると考えていらっしゃいますか？」

「面接官の方々の、仕事における失敗談を教えてください。」

「どのような方が中途採用で活躍されていますか？」

「将来的には〇〇の職種につきたいと考えていますが、チャンスを得ることはできるのでしょうか？」

「御社の今後の海外展開について、教えていただけますか？」

「入社までに準備しておいたほうが良いことを教えていただけますか？」

「配属先の方とお話をさせてもらうことはできますか？」

「周りに溶け込むのは自信があります。職場の雰囲気を見せていただけますか？」

質問に対する回答を受けて

質問に対して答えていただいたことへの感謝を伝え、自分としてどのように感じたか、どのように考えるかを伝えられるとよいです。このやり取りによって、コミュニケーション能力を見ていくこともあります。

「ありがとうございます。〇〇のスキルが御社で活かせると存じていませんでした。〇〇については以前に少し経験があるため、もう少し掘り下げて勉強してみます。」

「フランクな職場とお聞きし、とても安心しています。

活発な意見交換ができればと以前から考えていたため、今のお話を聞いてより入社したいという気持ちが強くなりました。」

「海外に新工場を建てる計画があったのですね。

そのような大きな挑戦に対して、ぜひ自分も力になりたいと強く感じました。」